

I 自己評価・生徒・保護者評価の結果について

(1) 概要

学校の現状について

本校は、全校生徒数750名を超える都内でも有数の大規模校である。多目的教室以外に空き教室はなく、少人数授業の展開や理科室での実験、体育実技等が自由に実施できない厳しい状況にある。新型コロナが5類扱いとなり、教育活動の活性化に伴い、生徒間のトラブルが少なからず発生しているが、組織的な対応により全体的には落ち着きがあり、活気ある学校生活を堅持できている。これは、全教員による休み時間中の生徒の見守りや、始業2分前の着席、昼休みの巡回等を推進することにより、チャイムと同時に授業を開始するという姿勢を、年間を通じて貫いているからである。

また、全教員が担任と副担任の別なく同僚性を重視し、協調と協働により生徒と正面から向き合い、日々の教育活動を通じて信頼関係を築くべく取り組んでいる。特に、今年度は本校の特長である二大行事（運動会・合唱コンクール）を完全実施することができ、保護者からも高い評価を得て、生徒一人一人に自信と誇りをもたせることにつながった。

年度末の質問紙調査は、昨年度から完全にオンライン調査としたため、回答率が56.5%まで下がり（前年度比-3.2ポイント）課題であるが、「学校生活は明るく活気があり楽しいですか」という項目に対して、生徒の肯定的評価89.4%（昨年度比+0.9ポイント：以下数値のみ）、保護者の肯定的評価79.2%（+1.8）となった。

今年度の重点目標について

I.学力向上～何を学んで、何ができるようになったのか

- ① 大泉中授業スタンダードを踏まえた「わかる授業」「魅力ある授業」の展開と「主体的・対話的で深い学びを実現」をめざした授業の追究
- ② 学習指導要領を踏まえた指導計画・評価計画の作成と実施
- ③ 基礎学力の定着と家庭学習の充実
- ④ 学習意欲の向上に向けた検定やコンクールの活用

II.秩序と活力ある学校生活の堅持

- ⑤ 個々の生徒のよさが発揮できる学級経営や学校行事の推進
- ⑥ 「特別の教科 道徳」の内容の充実
- ⑦ 教育相談活動の充実
- ⑧ 特別支援教育の充実
- ⑨ いじめ問題の防止と適切な対応

III.健康・体力

- ⑩ 生徒の健康づくりと体力向上の推進
- ⑪ 安全管理と事故防止の推進

IV.キャリア教育の推進

- ⑫ 体験的な学習活動によるキャリア教育の推進

V.小中一貫教育の推進

- ⑬ 小中一貫教育研究実践校としての取組の充実

VI.教職員の意識改革

- ⑭ 授業改善と授業力の向上
- ⑮ 新学習指導要領に基づく指導と評価についての研究
- ⑯ 服務事故の根絶

VII.保護者・地域から信頼される学校づくり

- ⑰ 学校・地域連携事業の積極的な運用
- ⑱ 土曜日授業の内容の充実
- ⑲ P T A事業や地域行事等への積極的な参加、協力
- ⑳ 開かれた学校づくり

今年度の成果と次年度に向けた課題および改善策について

I. 学力向上～何を学んで、何ができるようになったのか

- ①大泉中授業スタンダードを踏まえた「わかる授業」「魅力ある授業」の展開と「主体的・対話的で深い学びを実現」をめざした授業の追求

□成果… 全教員が年間1回以上、大泉中授業スタンダードを踏まえた校内研究授業を実施した。ICT機器の活用とともに、授業導入時の「目標設定」、展開時における「発問の工夫や学び合い」「気付きを生む授業展開」に工夫が見られた。感染症対策の緩和により生徒間の対話やグループ学習における話し合い活動が活発に行われるようになり、生徒用タブレットPCを活用して話し合いの結果をまとめ、発表するなどの学習活動が行われた。教員のほぼ100%が、タブレットを含むICT機器を活用した授業を展開するようになり、2学期末に実施した生徒対象授業評価質問紙調査では、授業に関する質問5項目の肯定的評価平均は90.2%で、「授業がわかりやすい」の項目に絞った肯定的評価の割合は、93.8%で昨年度比+0.8ポイントとなり、2年連続で向上している。

■課題… 保護者自由意見にもあったが、生徒用タブレットPCの活用については、教員のスキルの取得状況による格差がある。また、ICT機器の効果的な活用については、学習活動の内容に合わせて工夫を重ねていくなど、今後とも検証していく必要がある。

②学習指導要領を踏まえた指導計画・評価計画の作成と実施

□成果… 学習指導要領改訂に伴う観点別評価の割合(1:1:1)の取扱いについては、昨年度同様、年度当初の保護者会で説明し共通理解を図ったため、混乱なく実施できた。

評価の信頼性・妥当性を追求するための評価材料の明確化については、年度当初に評価に関する教員研修会を実施し、新しい評価観に基づく観点別評価と評価の総括方法について教員間の共通理解を図った。さらに、今年度も1、2学期末に全教科・全学年の3観点の評価材料と評価規準を提出させ、教科部会で検証させた。

■課題… 学習状況の評価について、生徒学校評価では肯定的評価90.6%(+3.3)だが、保護者評価は78.5(+0.1)にとどまっており、保護者自由意見では、評価について鼻屑があるのではという疑念の声もあった。三者面談等の中で丁寧な説明に努めるとともに、評価材料や評価基準の信頼性や妥当性を、さらに高めていく必要がある。

③基礎学力の定着と家庭学習の充実

□成果… 定期考査前には生徒の学習意欲に応えるため、各学年で質問教室の時間を設定した。また、夏季休業期間中の補充教室に加え、2・3学期には「地域未来塾(学習に不安をかかえる生徒対象)」を放課後の時間帯に実施することができた。また、授業時の小テストやスプリングコンテスト、計算コンテスト等を実施し、基礎・基本の定着を図ることができた。

■課題… 生徒授業評価で「家庭学習に意欲的に取り組んでいる」と肯定的に回答した生徒は、56.8%(+4.8)に留まっており、家庭学習が充実できるように働きかける必要がある。一方、保護者自由意見では課題が多すぎるとの声もあり、家庭学習の習慣がついている生徒と、そうでない生徒の格差が生じている実態がある。また、

塾の課題を優先したい旨の意見もあり、家庭での考え方も多様化している。学校では必要以上の課題は出していないので、ご理解と家庭でのご指導をお願いしたい。

④学習意欲の向上に向けた検定やコンクールの活用

□成果… 各種検定試験受験者数の延べ合計人数は、506名（英検受験者数293名、漢検受験者数152名、数検受験者数61名）で、全生徒の67%が受験した。

また、東京都中学校読書感想文コンクールで最優秀賞、中学生の「税についての作文」で東京国税局長賞を受賞する生徒がでるなど、表現活動で成果があった。

■課題… 昨年度から区が学習支援ソフトを導入し活用を促したが、前述の生徒授業評価の「家庭学習に意欲的に取り組んでいる」という項目は、56.8%である。生徒用タブレットでの課題提出状況も教科によってはばらつきがあるので、実態に合わせた丁寧な指導が必要である。また、検定受験者も残念ながら英検を中心に減少傾向にある。（生徒全体の8%にあたる62名減）

II. 秩序と活力ある学校生活の堅持

⑤個々の生徒のよさが発揮できる学級経営や学校行事の推進

□成果… 学校行事については、生徒・保護者とも93%が肯定的評価で、学年・学級経営計画による意図的、計画的な学年・学級経営についても、概ね予定通り実施できた。また、基本的な生活習慣「あじみこし」は年間を通じて指導し、あいさつや規範意識の醸成については生徒94.6（+5.6）、保護者88.6（-3.4）が肯定的な評価となった。

■課題… あいさつや規範意識の醸成については、保護者の評価が昨年度と比較して3.4ポイント減少している。保護者自由意見でも意見が割れているところである。また、「学校は明るく活気がある」と回答した生徒の割合は89%で、10%程度の生徒が充実感を得られていない状況なので、学級活動や行事への取組姿勢を改善する必要がある。また、学校のきまり等について細かすぎるとの意見があった。服装や生活のきまりについては、ここ数年、生徒の意見も取り入れながら見直しを図っている。ご理解とご協力をお願いしたい。さらに、修学旅行と定期考査の時期が近いことについて指摘があった。修学旅行は専用列車を活用して費用面を抑えているため、抽選制で自由に時期が選べない。定期考査も年間でバランスよく入れる必要があり苦慮しているので、ご理解をいただきたい。

⑥「特別の教科 道徳」の内容の充実

□成果… 道徳の充実については、92%の生徒が肯定的な評価をしており、道徳的価値を多面的、多角的に理解するために、各学年ともローテーションを組んで教員が各学級を指導する工夫をしている。

■課題… 規範意識の醸成については、約10%の生徒が十分でないと感じており、改善を図る必要がある。

⑦教育相談活動の充実

□成果… 教育相談期間を1、2学期当初に設定し、予定どおり実施することができた。また、1年生全員を対象とした年度当初のスクールカウンセラー（以下SC）による面談も実施できた。さらに、不登校の出現率ゼロを目指して、教育相談部会を週1回定例化し、スクールソーシャルワーカー（以下SSWr）等の関係機関も参加してもらい実施している。生徒の90%、保護者の76%が肯定的な評価である。

■課題… 不登校傾向のある生徒は増加傾向にあり、心理的な不安や感染症、起立性調節障害等の影響により不登校生徒の割合は全体の7%（+3）で58名である。また、外部の相談機関などと連携が全く取れていない生徒の割合は1%（9名）で、義務教育終了後のサポート体制を構築することが課題となっている。また、自由記述では、不登校傾向の家庭へ配布物が届いていないとの指摘があった。この点はしっかり連携するよう担任等に指導する。

⑧特別支援教育の充実

□成果… 特別支援学級と通常学級の交流については、学校行事、生徒会、専門委員会活動や体育行事員会生徒と

のポッチャ交流など実施することができた。

特別な支援を要する生徒への対応については、特別支援教育推進部会を毎週実施し、対象生徒の抽出と対応がより一層明確化した。また、特別支援教室での指導は、個別指導計画に基づく指導や部会での情報交換、巡回教員やSC、専門員との連携による個別支援の充実を図ったことで、15名在籍のうち8名が退室できることとなった。

■課題… 現在通室している生徒のほかにも通室が望ましい生徒が複数いるが、その生徒や保護者に説明し理解を得ることが難しい状況にある。

⑨いじめ問題の防止と適切な対応

□成果… 月1回、いじめ質問紙調査を実施するとともに、記述のあった生徒について漏らさず対応し、迅速に課題の解消に努めた。また、年2回の三者面談と夏季休業日明けに行う教育相談では、生徒の気持ちに寄り添う個別面談の充実を図るなど、多角的にいじめに対する早期発見に努めた。いじめに対する教員の毅然とした姿勢について、学校評価では生徒94% (+4)、保護者83% (+2) が肯定的評価であった。

■課題… 重篤ないじめ問題は発生していないものの、校外ではSNSにかかわる生徒間トラブルが発生している。情報モラル教育の充実とともに保護者への啓発、連携をより一層強め、家庭ルールの徹底を共有化していく。また、自由意見では一部の学年でいじめの問題があるとの指摘もあった。いじめを含む生徒間のトラブルについては今後も、早期発見、早期対応・解決に努めていく。

III. 健康・体力

⑩生徒の健康づくりと体力向上の推進

□成果… 都体力テストの結果、2年連続でスコアが伸び、合計点で男子8.8ポイント、女子4.7ポイントの向上がみられた。部活動については、トレーニング部を創設して体力の向上を図った。4つの部が都大会出場を果たした。学校評価では生徒84%、保護者88%が肯定的評価であった。

■課題… 自由意見では、部活動の時間がガイドラインよりも長く守られていないのではとの疑念の声があった。本校は人数が多く準備・片付けに時間がかかる場面もある。活動時間の厳守とともに、その前後も短時間でできるように指導する。また、教員や指導員にもガイドラインの遵守を指導する。

⑪安全管理と事故防止の推進

□成果… 安全教育については保護者の87%、安全管理と美化活動については生徒92%、保護者94%が肯定的評価であった。

■課題… コロナが5類となったことやマスクの着用が任意となったため、感染症が流行し、宿泊行事においても感染者が出たため、学年閉鎖が2学年、学級閉鎖はのべ2学級となった。

IV. キャリア教育の推進

⑫体験的な学習活動によるキャリア教育の推進

□成果… キャリア教育については保護者71%が肯定的な評価であった。感染症が流行した時期もあったが、年間指導計画に沿って職業調べや上級学校訪問、職場訪問などの体験的な学習活動を実施することができた。任意参加の1年生英語キャンプには67%の生徒が参加した。

V. 小中一貫教育の推進

⑬小中一貫教育研究実践校としての取組の充実

□成果… 昨年度から校区别協議会や生徒の交流活動を再開し、生徒会と児童会で「あいさつ運動」や「いじめ防止意見交換会」などを実施することができた。また、道徳の授業の参観や指導上の情報交換もおこなった。

■課題… 今後は、学習指導にかかわる課題改善カリキュラムに取り組む必要がある。また、保護者の肯定的評価が61% (+2) とやや改善されたが、小中の連携活動についてのさらなる周知が必要である。

VI. 教職員の意識改革

⑭授業改善と授業力の向上 ⑮習指導要領に基づく指導と評価についての研究については、I①を参照。

⑯サービス事故の根絶

□成果… サービス規律やハラスメントについて、例月の職員会議や校内研修で事例研究や指導を行った結果、体罰や情報漏洩の事故等重篤な事故は発生していない。

■課題… 保護者自由意見にもあったが、生徒に寄り添う指導が十分でなかったり、感情的な不用意な言動があったりした教員について、生徒や保護者から相談があり、該当教員へ指導する場面があった。人権について教職員が互いに意識を高め合えるような研修を継続的に実施して指導する。

VII. 保護者・地域から信頼される学校づくり

⑰学校・地域連携事業の積極的な運用 ⑱土曜日授業の内容の充実 ⑲PTA事業や地域行事等への積極的な参加、協力 ⑳開かれた学校づくり

□成果… コロナ感染症が感染症5類となったことで、4年ぶりに地区祭が行われ、生徒会を中心に50名ほどの生徒が、地域活動に参加することができた。また、昨年度に引き続き、同窓会による餅つき大会も実施できた。学校のHPなど情報公開については、生徒、保護者とも85%が肯定的な評価である。今後も、様々な地域行事に参加し、社会に開かれた学校づくりを推進する。

2 根拠となる資料 *今年度の学校経営方針をもとに作成

(1) 学校経営計画に基づく重点目標・具体的方策とその結果 <達成度 ◎:十分 ○:おおむね △:未達>

経営目標		短期目標	具体的な方法	評価方法・目標値	結果値	達成度
生徒	確かな学力	①大泉中授業スタンダードを踏まえたわかる授業の展開と「主体的、対話的で深い学びの実現」をめざした授業の追求	<ul style="list-style-type: none"> 授業の構造化による学習課題やポイント、流れの明確化、可視化（ICT機器の活用） 生徒一人一人が思考・判断・文書などに表現する場面を取り入れた課題解決型授業の実践（生徒タブレット端末の活用） 小グループや少人数指導による協働的な学習 	<ul style="list-style-type: none"> ◆評価項目3～5.7の肯定的評価平均90%以上（86.8%） ・生徒授業評価の肯定的評価75% 	80.2%	△
		②新教育課程を踏まえた年間指導計画・評価計画の作成と実施	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画と評価計画の見直し、改善と年度当初の開示。 評価の信頼性・妥当性を追求するための評価材料の明確化。（1、2学期に管理職に提出） 	<ul style="list-style-type: none"> ◆保護者質問紙調査項目4と5の肯定的評価平均85%以上（82.5%） 	80.1%	△
生徒	確かな学力	③基礎学力の定着と家庭学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> 宿題や単元テスト、小テストの予習など課題の提示（週50%以上） 生徒タブレット端末のオンライン学習教材の活用 定期考査前や長期休業日の質問教室や補充学習の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ◆生徒授業評価の肯定的評価60%以上 ◆全国学力調査1日1時間以上 ◆都学習状況繰り返し練習する 	56.8%	○
		④学習意欲の向上に向けた検定やコンクールの活用	<ul style="list-style-type: none"> 英語・漢字・数学検定等の奨励 検定試験前の対策教室の実施 全教員やSSSによる積極的な支援 実施方法の適切な設定 	<ul style="list-style-type: none"> ◆受験率等前年比5%向上（84.7%） 	79.8%	60.7%

豊かな心	①個々の生徒のよさが発揮できる学級経営や学校行事の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学年経営案、学級経営案による意図的、計画的な学年・学級経営 ・年度当初に全生徒対象の教育相談 ・年2回の個別面談の実施 ・基本的な生活習慣「あじみこし」の指導 ・達成感のある学校行事の実施 	◆保護者質問紙調査項目6と9、10の肯定的評価平均90%以上(87.9%)	88.3%	○	
	②「特別の教科 道徳」の内容の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に基づく意図的な指導 ・道徳的実践力向上のための指導法改善 ・道徳的価値を多面的、多角的に理解するための活動の充実と記録の蓄積 	◆保護者質問紙調査項目11と13の肯定的評価平均88%以上(84.3%)	84.6%	○	
	③教育相談活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の心の安定を図り、外部機関とつながりのない不登校生徒ゼロを目指した教育相談、個人面談等の実施(年間2回) ・1年生全員対象のSCによる面談の実施 	◆保護者質問紙調査項目14の肯定的評価平均83%以上(77.1%) ◆生徒質問紙評価	76.3% 90.6%	○	
	④特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級と通常学級の交流及び共同学習の充実 ・校内委員会での情報交換、巡回教員やSC、専門員との連携による個別支援の充実 ・個別指導計画に基づく指導の実施と結果の検証、PDCAサイクル化 	◆保護者質問紙調査項目17の肯定的評価平均85%以上(74.9%)	77.5%	○	
	⑤いじめ問題の防止と適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校いじめ防止基本方針」に基づく未然防止指導の徹底 ・校内いじめ対策委員会を中心とした組織的で迅速な対応、いじめの解消・解決 	◆月1回調査又は個人面談の確実な実施 ◆重篤ないじめや人間関係トラブル発生率0%	軽微ないじめ 27件 不登校 7%	○	
健康・体力	①生徒の健康づくりと体力向上の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じた体力づくりの実施 ・区の部活動の在り方に関する方針に沿った部活動指導の充実。(全教員で補充する) 	◆保護者質問紙調査項目15の肯定的評価平均90%以上(88.2%)	86.5%	○	
	②安全管理と事故防止の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に基づく、様々な状況を想定した避難訓練等の実施 	◆保護者質問紙調査項目11と16の肯定的評価平均93%以上(91.1%)	89.7%	○	
キャリア教育	①体験的な学習活動によるキャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に沿った発達段階に応じた体験的な学習活動の充実 ・校外学習等による日本の伝統文化体験学習 ・ALTや東京英語村、英語キャンプを活用した国際交流の実施 	◆保護者質問紙調査項目7の肯定的評価平均85%以上(81.0%) ◆生徒質問紙評価	80.9% 88.5%	○	
小中一貫	①小中一貫教育研究実践校の取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「目指す15歳の姿」を実現させるための校区別協議会の充実(年間5回) 	◆保護者質問紙調査項目19の肯定的評価平均63%以上(59.1%) ◆生徒質問紙評価	60.8% 77.9%	○	
教職員	資質向上	①授業改善と授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の「学びに向かう力」を高め、思考・判断・表現力を高める授業改善(ICTの活用) 	◆教員の自己評価平均95%以上(93.5%)	95.1%	◎
		②学習指導要領に基づく指導と評価の研究 ③服務事故の根絶	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業の実施(1人1回) ・体罰や不適切な指導の根絶に向けた服務事故防止研修の実施(年間3回以上) 	◆服務事故発生率0(0)%	0%	◎

	組織力の向上	① 4 級職教諭を中心とした組織的な学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の運営連絡会議の実施 ・週1回の企画委員会における各分掌からの起案事項の適切な協議 ・4級職教諭との定期的な経営会議の実施 ・若手教員対象ミニ研修の実施(年15回) 	◆教育目標の達成率 98%(98.8%)	92.7%	○
		②教職員のライフワークバランスの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・校務の効率化や組織的な対応による在校時間の縮減(月45h、年間320h) ・夏休連続5日、年休取得10日以上 	◆上限内達成率 50% 54%		◎
家庭・地域	信頼される学校づくり	①学校・地域連携事業の積極的な運用	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターとの連携による地域人材の積極的な登用と活用 	◆保護者質問紙調査項目12の肯定的評価平均93%以上(89.2%)	85.2%	△
		②土曜日授業の内容の充実 ③PTA 事業や地域行事等への積極的な参加、協力 ④開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜日の公開授業や各種行事の内容の工夫による保護者参観者の増加 ・生徒会や部活動を中心とした地域ボランティア活動の充実 ・PTA 活動や地域行事等への全教員の参加・協力(年1人1回) ・学校だより・ホームページの定期的な発行・更新と記事の多様化(毎日) 	◆保護者の参加率前年度比10%向上 ◆保護者アンケート回収率70%以上(59.7%)	56.5%	△

(2) 次年度に向けた校長の見解(学校評議員会のご意見を受けて)

昨年度より保護者質問紙調査を Google form を活用して実施したところ、昨年度は 10.4 ポイント回収率が上昇しましたが、今年度は 56.5% という結果となり、連続して 60% に達していません。次年度は、さらに協力を呼び掛けて回収率を上げ、保護者からの評価の信頼性を高める必要があると考えています。また、昨年度よりは改善されたものの、目標値に未達の項目が 5 項目あり課題だと感じています。学校評議員会では、大泉中では夜遅くまで職員室に灯りがついており、教員が仕事をしていることについて、改善は図られているものの、働き方改革をさらに進め、自分の健康に留意する必要があるとのご指摘いただきました。また、そうした教員へのサポート体制の充実が、生徒と向き合う教員には必要とのご意見もいただきました。コロナウイルスが 5 類に分類されたことにより、従来、本校で実施してきた教育活動について見直しを図りながら復活させてきた 1 年間でしたが、働き方改革を図りながらも、教職員が情熱をもって様々な教育活動を活かし、生徒たちに学ばせよう、伝統を守っていこうとする気持ちを大切にしていってほしいとのご意見もいただきました。

次年度も、中期計画に基づく教育活動を実行してまいります。ご指摘いただいたように教員の働き方改革と教育活動の充実の両立を図るため、教職員の「同僚性」を一層高め、教育目標の達成に向けて取り組んでまいります。また、開かれた学校づくりに努め、PTA や地域活動に協力し、生徒も教職員も積極的に地域活動に協力する姿勢を維持したいと考えます。